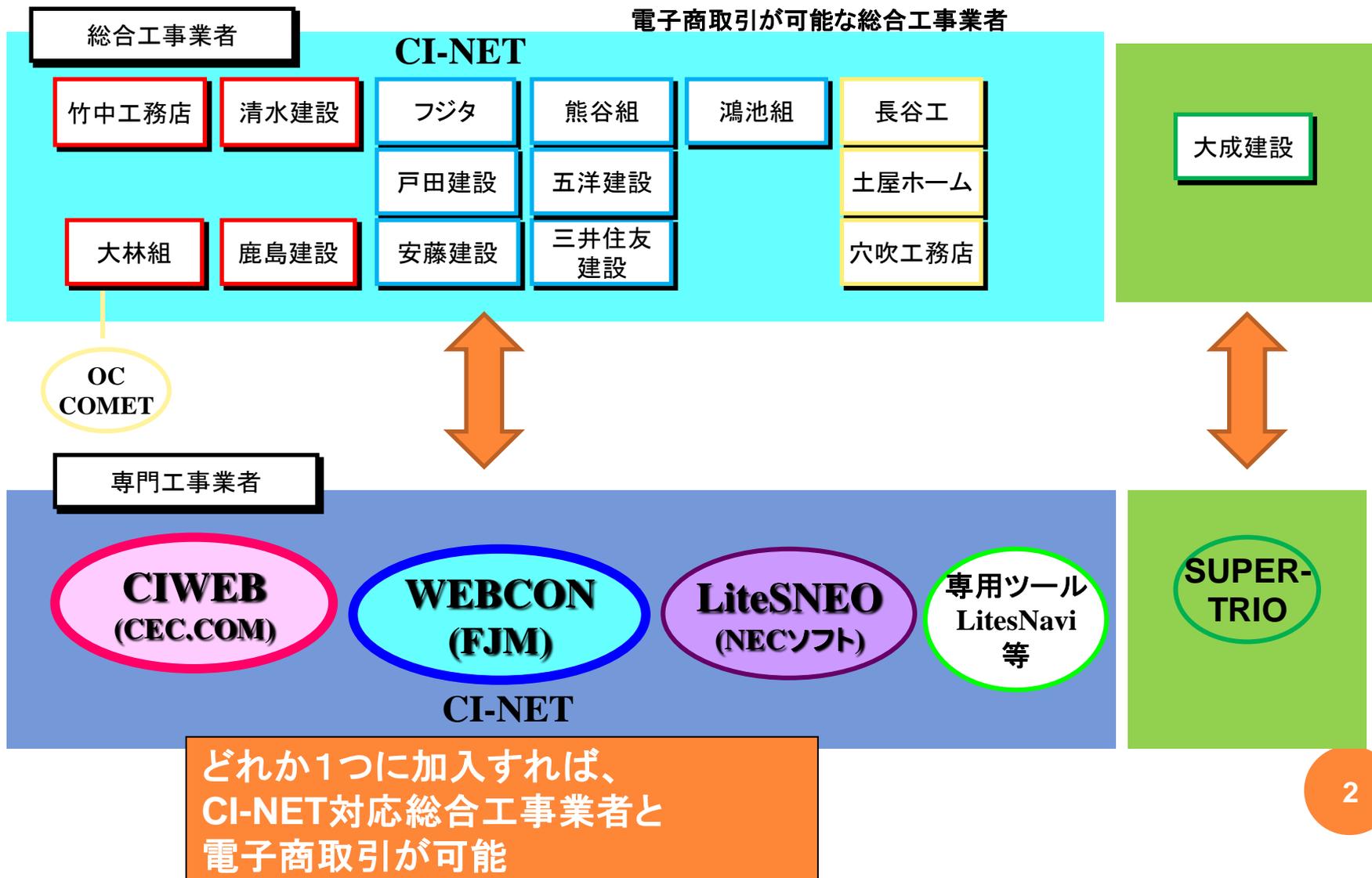


電子商取引の現状と 導入企業の事例体験談

(安藤建設 事例説明)

安藤建設株式会社
西村 高志

建設業界における電子商取引の現状

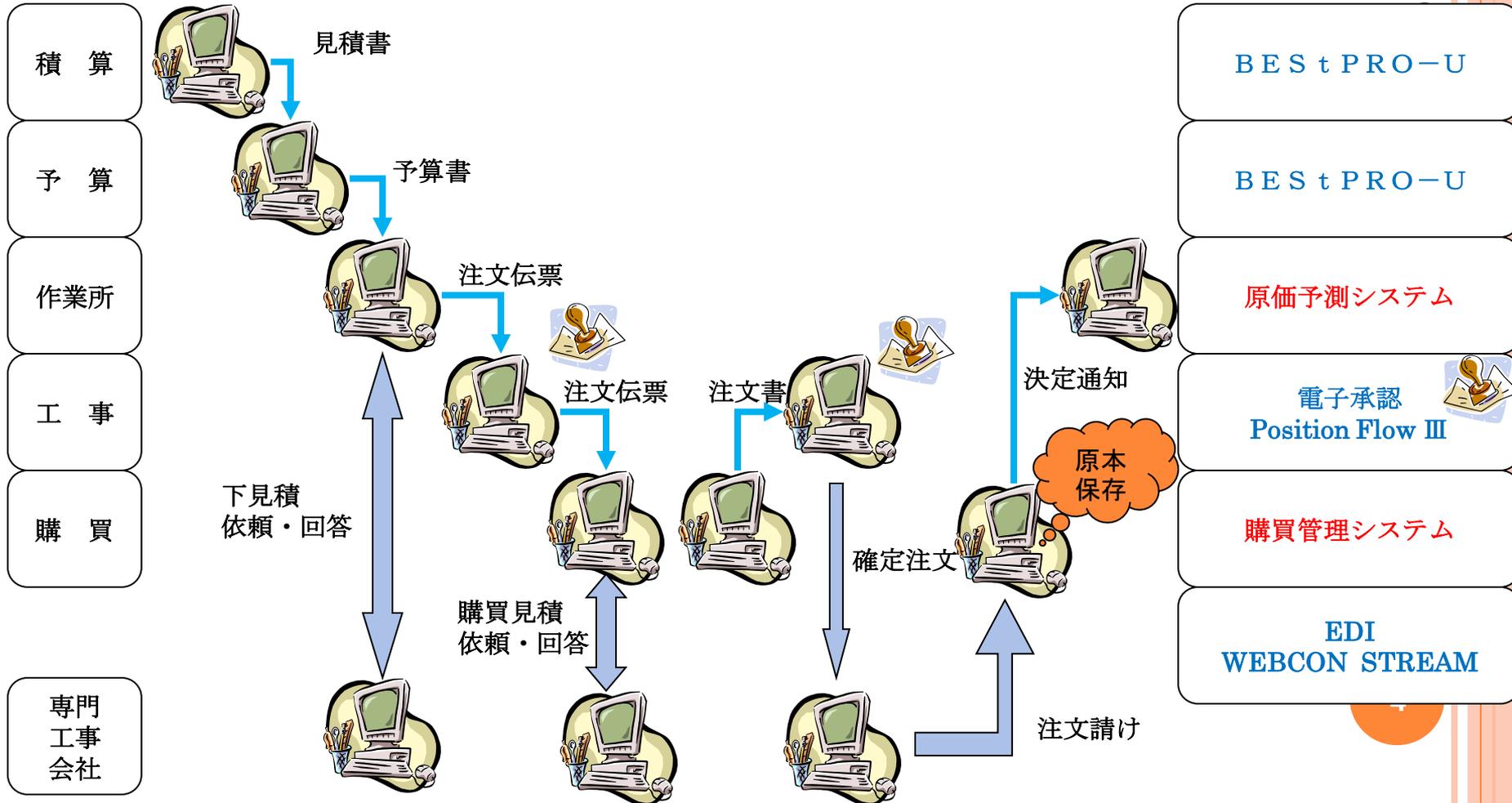


C I - N E T 導入までの経緯

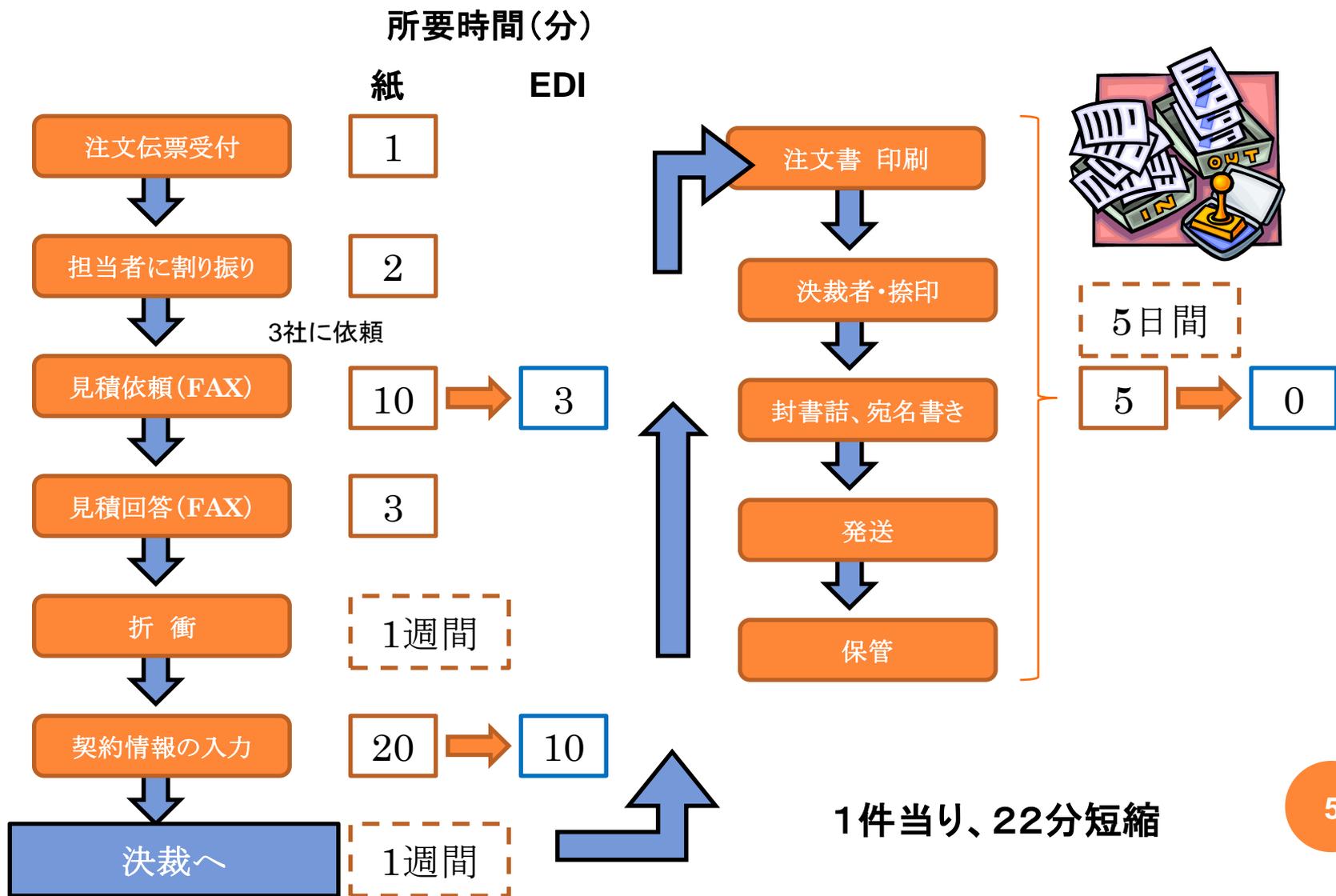
- 1998年10月 コマース21 運用開始
 - －コスト競争への対応を支援
 - －顧客への迅速かつ精度の高いコスト情報の提供
 - －EDIやCALSといった電子商取引への対応
- 2000年 7月 電子調達システムV 1 運用開始
 - －コスト関連業務の最適化
 - －専門工事業者を含めた業務の効率化
 - －コスト情報の早期把握
- 2002年 6月 電子調達システムV 2 運用開始
 - －電子契約の実現
- 2003年10月 出来高・請求EDI 運用開始
 - －「建設業の生産高度化のための実証実験事業」の実証実験に参加

電子調達システムの概要

2011/1

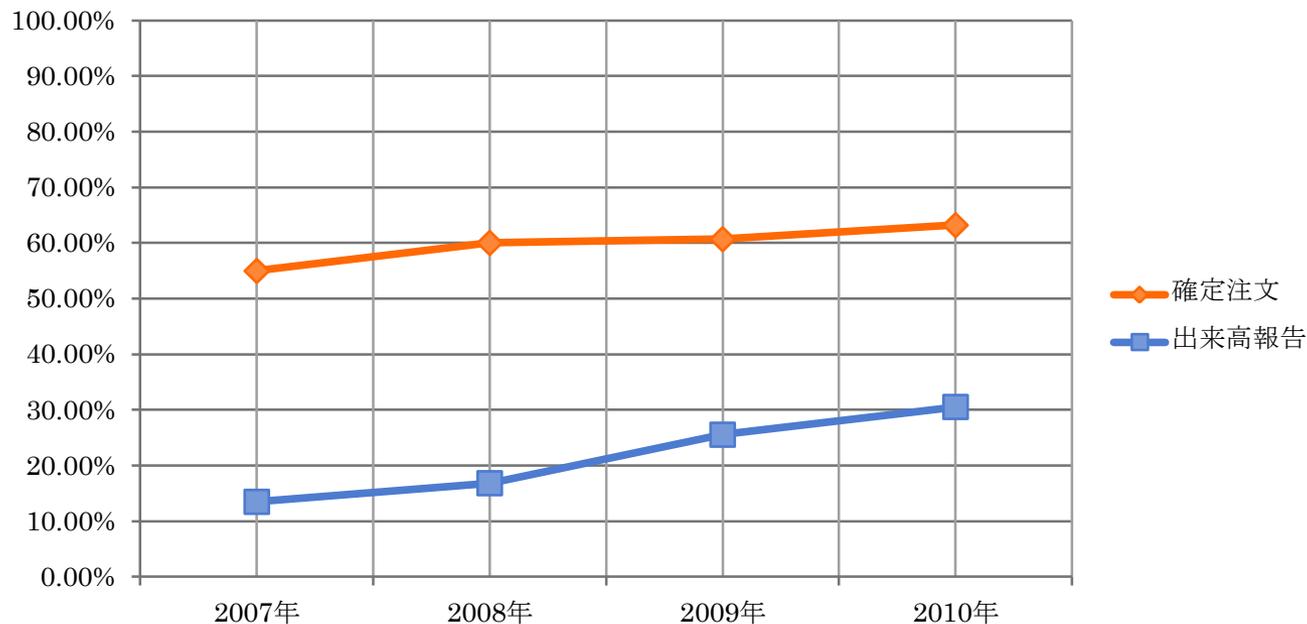


紙とEDIの業務比較



CI-NET利用状況

電化率(件数ベース)



発行数 (上段:総数、下段:電子)

書類	2007年	2008年	2009年	2010年
確定注文	13,185	12,121	11,369	12,173
	7,245	7,271	6,896	7,691
出来高報告	43,864	39,376	33,122	35,798
	5,905	6,619	8,454	10,922

導入効果(直接的な効果)

見積依頼

・回答

- ・見積依頼 発送の手間、連絡ミス等の軽減
- ・見積期間の短縮
- ・複数の見積回答を容易に比較検討できる
- ・契約時の転記が不要となり、単価登録作業が軽減

確定注文

・注文請け

- ・確定注文 発送の手間・時間・費用の削減
- ・注文請け返信時間の短縮



時間面 (迅速度)

- ・ $6,896 \times 22 \text{分} / \text{件} \div 60 = \text{年間 } 2,528 \text{時間}$ 短縮
(約316日間)

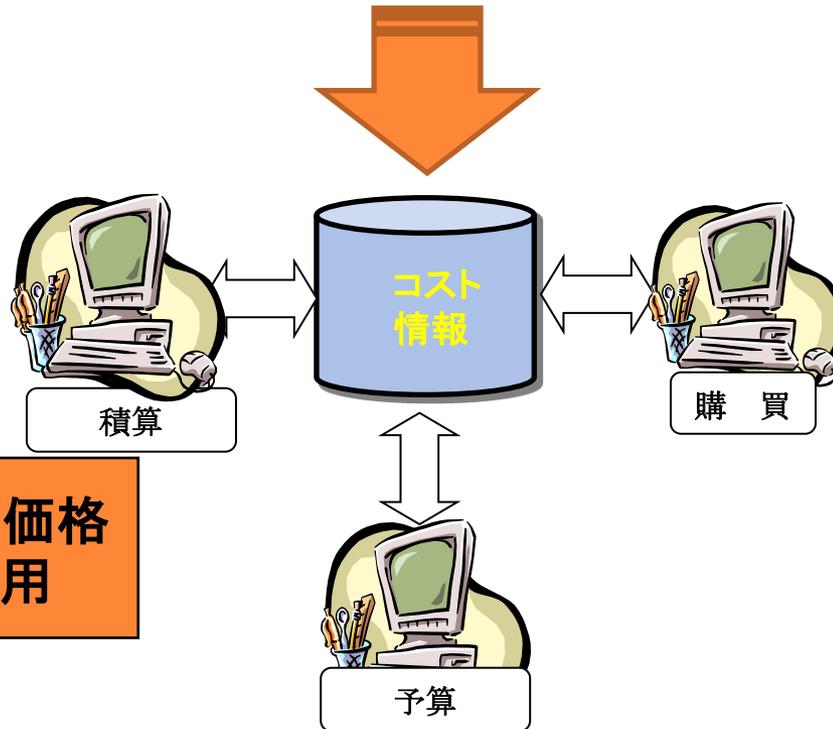
コスト面 (経費等)

- ・ 宅配費 $6,896 \times 95 \text{円} / \text{件} = \text{年間 } 655,120 \text{円}$
- ・ 紙代 $6,896 \times 38 \text{枚} \times 1,800 \text{円} / 2,500 \text{枚}$
=年間 188,674 円
- ・ 通信費 $6,896 \times 3 \times 12 \text{円} / \text{件}$
=年間 248,256円

導入効果 (波及的な効果)

波及的な 効果

- 書類の電子化による保管、管理、過去データの有効利用が可能
- 関連業務の標準化・電子化に貢献・波及
- 法令遵守にも寄与



新規案件の価格
交渉時に活用

導入効果(専門工事業者)

2001年3月に国土交通省における

「中堅・中小建設業向け電子商取引システム等研究事業」の実証実験結果

※見積依頼、回答業務を対象

● 時間面

－見積依頼内容確認	18.3分	短縮
－見積回答書作成	40.8分	短縮
－見積回答配送		
・来社して届けた場合	60.0分	短縮
・郵送、宅配を利用した場合	180.6分	短縮
・FAXを利用した場合	17.6分	短縮

● コスト面

－交通費、郵送費、通信費の削減	19,360円／月	削減
-----------------	-----------	----

課題

社内

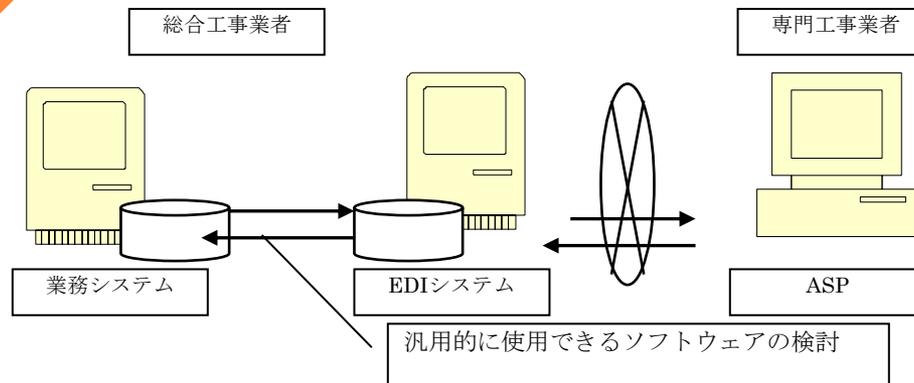
- 電子化率の向上

建設業界

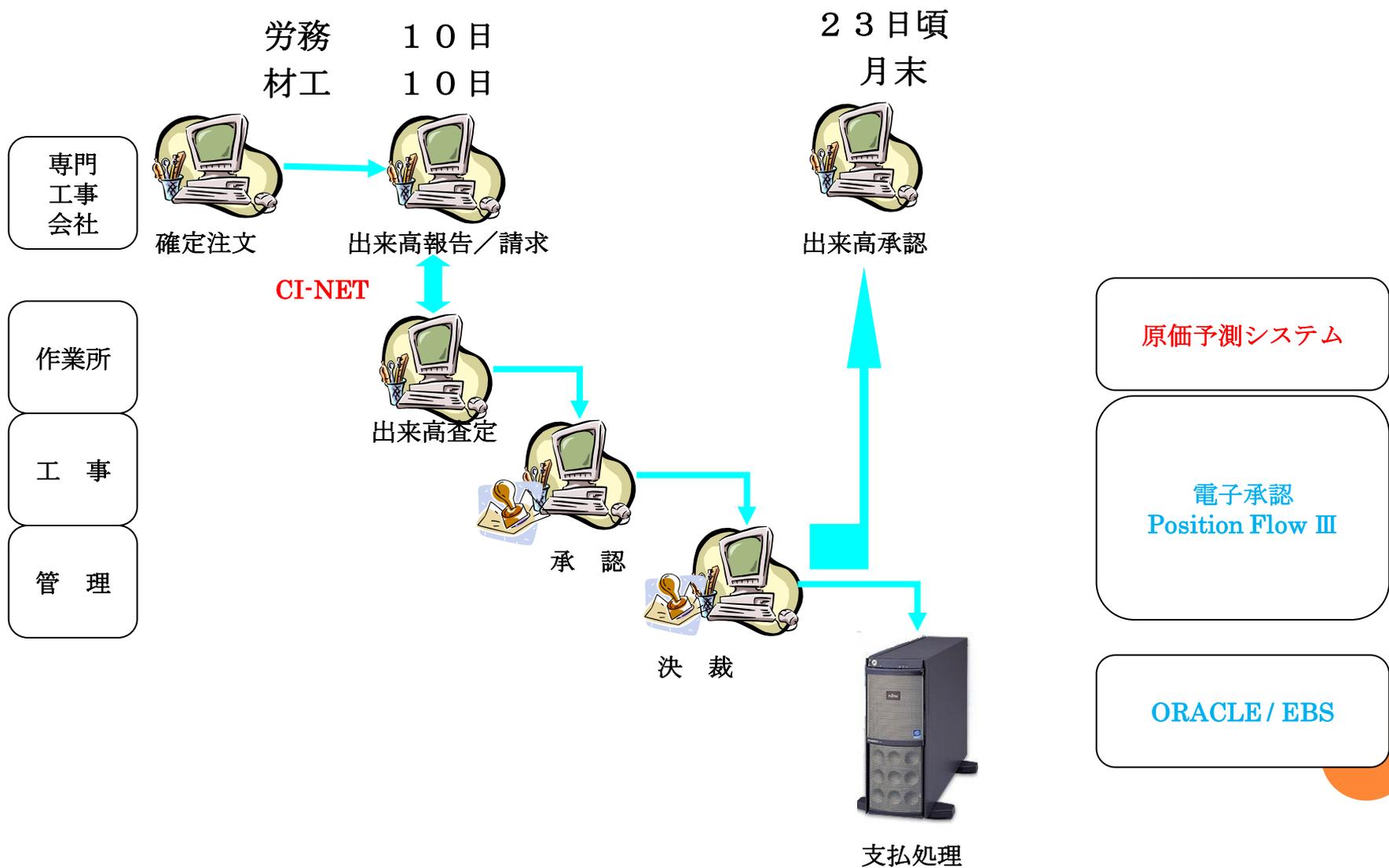
- 専門工事業者への普及拡大
- 中堅、地方総合工事業者への普及拡大

ベンダー

- 安価なEDIシステムの提供
- 業務連携モジュールの共有化
- 購買業務システムの開発



システム概要(2)



課題

社内

- 工事請負契約以外(リース、資材、警備)の請求業務の電子化

建設業
振興基金

- 電子商取引体験環境の整備
- 契約外請求の実装規約の策定

	2007年 (件)	2008年 (件)	2009年 (件)	2010年 (件)
契約工事	43,864	39,376	33,122	36,092
契約外工事	94,319	82,624	61,922	63,064